

2015年7月7日

アフラックペアレンツハウスが「第9回キッズデザイン賞」を受賞

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長：山内 裕司）と公益財団法人がんの子どもを守る会（理事長：山下 公輔）はこのたび、キッズデザイン協議会（内閣府認証 NPO）が主催する「第9回キッズデザイン賞」を受賞しました。

「キッズデザイン賞」とは、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「創造性と未来を拓くデザイン」そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインの理念を実現し、普及するための顕彰制度です。乳幼児用品や玩具などの子ども向けの製品・サービスに限らず、大人向けのものでありながら、子ども目線を持った、良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動などを対象として幅広く募集するもので、受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められます。

なお、今後の予定として、第9回キッズデザイン賞を受賞した企業の中から最終審査が行われ、8月3日（月）に「内閣総理大臣賞」をはじめとした優秀作品が別途発表される予定です。

【受賞内容の概要】

受賞部門：子どもの産み育て支援デザイン 地域・社会部門

保育園、学校、自治体、地域などの施設で使用され、複数の子どもや親を対象とした、安全かつ楽しい妊娠・出産や子育てを支援する工夫がなされたもの。

プロジェクト名：アフラックペアレンツハウス

「アフラックペアレンツハウス」とは、小児がんなどの難病のために、自宅から離れた病院で治療を受ける子どもとそのご家族が1泊1,000円で宿泊できる施設です。

～アピールポイント～

アフラックは、「アフラックペアレンツハウス」の安定的な運営を目的として、社員と保険販売代理店から寄付を募る仕組み「アフラック・キッズサポートシステム」を構築しています。特長は、会社が寄付を行うだけではなく、社員と保険販売代理店が主体となり継続的に寄付する仕組みがあることです。寄付金は、会社からの寄付の他、社員の給与控除や保険代理店の手数料相殺を通じて、キッズサポートシステムに集められ、アフラックペアレンツハウスの運営費（年間約1億3,000万円）に充てられています。また、一般の方にもこの仕組みを通じた寄付に賛同いただいております。制度を開始した1999年からこれまでの累計寄付金額は20億円を超えています。



当社は、多くの方々の「生きる」を創る保険会社として、社会における課題の解決と持続的な成長をめざし、社会と共有できる価値の創造（CSV*経営）に努めていきます。

※CSV:Creating Shared Value